

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397500063		
法人名	株式会社瑞穂介護センター		
事業所名	グループホームあいる弥富 (ぶんちょう)		
所在地	愛知県弥富市森津9丁目14-8		
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果市町村受理日	令和6年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2397500063-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設で育てている野菜を食べて頂き、一緒に水やりをして育てたことを喜んでもらえるように、やりがいを感じてもらえるようにする。
レク時にも利用者が自分達の「できること」を意識し職員が共有し合い自立を認識してもらえるようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの隣りの場所に開設しているグループホームが、令和4年に当ホーム運営法人の関連法人に移行したこともあり、事業所間での連携が深まっている。新たな取り組みとして、今年度から再開された運営推進会議について、関連事業所と合同での開催が実現しており、会議の関係者に関連事業所も含めたホームの運営状況を知ってもらう機会にもつながっている。家族との交流についても、感染症の状況をみながら徐々に交流を再開する対応が取られており、広い玄関ホールを活用しながら、利用者や家族が交流を深める機会につなげている。また、定期的の実施している防災訓練については、当ホームの隣りにある関連事業所と連携した合同の避難訓練も実施しており、水害も含めた非常災害時に事業所間で必要な連携と支援を行うことができるような取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	エントランス・事務所にいつでも確認できるよう掲示しており、毎月のモニタリング時も確認し意識し利用者とかかわっている	ホームの基本理念を職員による支援の基本に考えながら、職員会議等の機会を通じて職員間で理念の内容を共有する働きかけが行われている。また、ホームで新たに「スキルチェック」等を実施し、職員の振り返りと理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	外部との関わりはなかなか持ていません	感染症問題が徐々に落ち着いたこともあり、地域の活動も徐々に再開しており、交流の機会にもつながっている。ホームの近隣にある幼稚園との交流も再開しており、今後の状況もみながら交流を深める予定でもある。	感染症問題が長期化しているが、ホームとしては地域の方との交流には前向きでもある。今後の感染症の状況をみながら交流が深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方との交流はできていません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	R5.7より対面での運営推進会議を再開しています	今年度に入り、対面方式での会議を再開しており、関係者との定期的な情報交換等の機会がつけられている。当ホーム隣のグループホームが運営法人の関連事業所に移行したこともあり、合同の会議も実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	弥富市の調整会議も再開され参加しています 少しずつではありますが関係性を築ける様努力しています。	市内の介護事業所が集まる連絡会についても会議が再開しており、ホームからも職員が参加する機会をつくっている。また、地域包括支援センターとの情報交換等の取り組みや当ホーム隣りの関連事業所とも連携した関係部署との交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な委員会を設け検討、周知を行っています。 エスケープの事例後現在も最小限施設をしています	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の状況に合わせてホームから外に出る等、一人ひとりに合わせた支援が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修が行われており、現状の確認や職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な委員会実施 日常の言葉使いや関わり方を職員で指摘し合って防止に努め態度も気を付けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修をおこなっています 新人職員を含め学習し支援への繋がりを考えていきます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時と限られた時間の中ですが可能な限り要望を伺い反映しています	当ホームの玄関ホールが広い空間であることで、家族との交流の機会にもつながっている。利用者や家族からの要望等については管理者が把握し、内容に合わせて運営法人の幹部職員に報告している。また、毎月のホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別面談、ユニット会議で意見、提案を聞き取り 支援につなげている	毎月の職員会議や職員間での日常的な情報交換を行いながら、職員からの意見等を管理者や運営法人の幹部職員が把握し、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による職員面談を実施しながら、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が限りある中での職場環境で意欲を持って支援業務につけるよう整備に努めてもらっていると思います		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入職時のOJTは勿論のこと体力や精神面も考えながら職員の力量を把握してもらい外部研修を受けたりOJTを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナの影響でできていませんが研修時には少しばかりの情報交換ができた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安な気持ちを受け止めながらゆっくりと聞き少しでも多くの要望に応えられるよう寄り添っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	短時間の面会や電話でお話しさせて頂き毎月お便りを郵送させてもらっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族が求めている要望に必要な支援を見極めサービス利用を考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る事、したいことを把握し職員間で共有して支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の様子を伝えご家族だからこそ出来る事をお話しさせてもらい共に本人を支援していけるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族のみの面会に限っているので知人・友人との交流は減ったが施設内での往診・訪問・訪問理容との関係を支援している	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、入居前からの関係の方との交流を継続している方もいる。また、家族との外出について徐々に緩和されており、身内の方が集まる法事に出かけた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	余暇時間は一人一人の声かけして複数でのゲーム・作業を職員が中に入り無理強いない本人の気持ちを大切にして利用者同士の関係を支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族の想いを受け止めて相談し対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話で聞き取りしたり家族からの情報で 本人の思いや希望・意向の把握に努めている	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握と職員間での共有が行われている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	同上にて入所前の生活歴の情報を把握して家族と共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日の様子や職員からの情報・記録を確認して 心身状態の把握に努め職員間で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員全員から意見を出してもらい話し合い 介護計画を作成している	介護計画については、3か月を基本に見直しが行われており、利用者の様々な状況に合わせた対応が行われている。また、日常的には、介護計画の内容に合わせた記録を残し、担当職員も参加しながら毎月のモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、対応、結果は毎日の記録で確認して気づきや工夫は職員間で情報交換しながら実践し考え介護計画の参考にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	決められたサービスに捉われないその時々 の状況に応じた対応していくことで新しいサービスが 生まれることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナの影響もあり難しいさもありますがイベントにボランティアを呼んだり、利用者家族による演奏会を可能な限り取り入れています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診を受け必要時には専門医に受診しています	協力医との医療面での連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応が行われている。受診については、家族による対応を基本としている。また、訪問看護との定期的及び随時の連携が行われており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護を受け健康チェックしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを使って情報提供し必要時には連絡を取り合い連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態に応じて医師から家族への説明、家族の意向、本人にあった生活を過ごせるようにチームで共有し支援している	身体状態の重い方も可能な限りホームでの生活を継続しており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、次の生活場所への移行も含めた、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアル作成。 訓練も行い頭では分かっているが実践するのは経験者だけかもしれない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は行っている 各利用者の身体状況を把握し避難方法を全職員が身につけるようにしたい	年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。運営法人の関連事業所と連携した取り組みも行われており、水害を想定した訓練も行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	当ホームの隣りに開設している運営法人の関連事業所との災害に関する訓練の取り組みが行われている。水害時の対応等、継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人権を尊重し言葉をきちんと選びその人に合った声掛けや支援を行っている	利用者の人格を尊重し、職員による利用者への対応を意識するような働きかけも行われている。職員による対応等で、管理者が気になった際には、注意喚起等を行う取り組みも行われている。また、職員の接遇に関する研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日課でも無理強いしないように声かけして思いを受け止めるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	タイムスケジュールではなく利用者に合わせた関わり方を心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみは朝のルーティンとして行い入浴前には自身で服を選んでもらっています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る範囲で盛り付けや準備をして頂いている レクレーションの一環では出来ない方も一緒に参加し楽しんでもらう	ホームでは、外部業者も活用しながら食事の提供が行われており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。おやつ作りや季節等にも合わせた食事の提供も行われており、利用者もできることに参加する機会をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々に合った食事形態で提供 食事ペースも個々に合わせて状況に応じて介助も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に一呼吸おき声掛け誘導している。必要時には介助、残渣確認も可能な限り行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し声掛け・誘導を行っている 見守り・介助は日々の状態に応じて支援している	利用者の身体状態等にも合わせながら排泄に関する記録を残し、職員間で情報を共有する取り組みが行われている。ポータブルトイレの活用を検討しながら排泄状態が改善した方もいる。また、排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤だけではなく食物繊維豊富な食品・水分摂取等で自然排便の促しをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴時は皆さん喜ばれているが誘導時には拒否が見られる事も。 声掛けやタイミングで快く浴室まで行けるように努めている	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方も声かけを行いながら定期的な入浴につなげている。浴室にリフトが設置されており、利用者の身体状態に対応した入浴も行われている。また、季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝前は余暇時間をゆっくりと過ごして頂き好きな時に休んでいただくようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の有無・用法・容量の把握はしているが 副作用等認識は薄いと思います		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	意欲・楽しみが感じられるように役割を持っていただいています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	人が多い場所への外出はまだできておらず、 曜日、時間帯を考慮して公園。ドライブは行っています	季節や天候等にも合わせながらホームの近隣を散歩する等、利用者がホームの外に出る機会をつくっている。季節等にも合わせた花見や初詣等に出かける機会もつくっている。今後に向けて外出の機会を増やす方針でもある。	利用者の外出については、運営法人の関連事業所から自動車を借りることができるようになったこともあるため、今後の利用者の外出にもつながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人だけ金銭を所持し家族と通院、買い物をしています。 他の方は要望があれば家族に報告して可能な限り用意して頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を書いています。家族からの電話は取り次いでいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた壁面作成やおやつ作りをして季節を感じて頂ける工夫をしています	ホーム内は広めの空間がつくられている他にも、リビングが南向きであることで採光にも優れており、利用者は日中の時間を明るい雰囲気ですごしている。また、季節等にも合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアでテレビ鑑賞・読書・作品作りと好きなように過ごして頂ける時間を設けています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の状態に応じて環境整備している 自身が作った作品や写真、自宅から使い慣れたものを置き安心して過ごせるように工夫している	居室には、利用者や家族に意向等にも合わせた好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室内にクローゼットが設置されていることで、車椅子で生活している方も居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全な環境作りに努め自立した生活が送れるよう その時々での支援をしています		